

参 考 資 料

(第5回名古屋駅周辺まちづくり構想懇談会)

平成26年3月24日

第4回懇談会の主な意見

1. 広域的・国際的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す

(1) 国際的・広域的なビジネス拠点・交流拠点を形成する。

- ・中央新幹線の駅というのは従来の駅ではなく、スーパートランジットハブのような、空港のような感覚でやらないと持てる力を発揮できない。
- ・もっと大きな縮尺で大きいものを描いてもらいたい。高速道路ネットワーク、鉄道ネットワーク、それから中部国際空港、名古屋空港、これらを描き込んでもらって、全体像がないといけない。
- ・バスターミナルと直結できるようにしなければいけない。
- ・道路ネットワークのプロジェクトは、市ではなく、もっと大きなレベルで考える話である。
- ・高速道路にスムーズにアクセスできるようにしないといけない。

(2) 玄関口にふさわしい風格と賑わいを感じさせる顔づくりを進める。

- ・大事なのはリニアで名古屋に来る人にとっての顔になる空間はどうするかということで、現在ある名駅の顔とはまったく違った新しい顔を作る必要がある。
- ・風格とは見えるものだけではなく、駅や地下街の音環境についても気をつけていただきたい。

(3) ビジネス拠点・交流拠点に必要な安全性を確保する。

- ・火災の煙を逃がすために、空を開けておいてください。
- ・リニアよりも深いところに水を収めるような仕組みがいるのではないか。
- ・名古屋駅周辺は震災に加えて想定外の大雨、ゲリラ豪雨、台風などによる浸水が懸念されるので、災害に強い、安心・安全・快適なまちづくりに繋がる構想にしてもらいたい。

2. 国際レベルの誰にも使いやすいターミナル駅をつくる

- (1) 初めての人や外国人にもわかりやすいターミナル駅を形成する。
- (2) リニアの速達性を活かすなど交通機関相互の乗換利便性を向上する。

- ・ 地下深くから名古屋に来る人たちを地上に上げる動線作りが重要。
- ・ 駅全体を歩いてぐるっと行ける空中回廊的なものと、動く歩道で駅全体を囲むようなものはできないか。
- ・ レベルを全て合わせて各個別開発を展開させていくことを注意深く書き込んだ方がよい。
- ・ 名古屋としての駅開発における駐車場ルールを作るべき。
- ・ 名古屋駅は古い地下街が多く、WIN-WINの関係のなかで、地上に上がってもらうというような仕組みをつくらないと、わかりやすくして利用しやすい空間を形成することはできない。
- ・ 「世界に冠たるスーパーターミナル拠点」とあるが、ターミナルは英語でいうと「終着駅」のことで、「末期の、破滅的な、壊滅的な」という意味もある。日本語でいえば全然良いが、このまま使って良いのか。
- ・ 駅の中だけとか、もっと具体的な計画を是非早急に作っていく必要があり、それがないと乗換え利便性の議論なんて具体的にわからない。
- ・ 乗換利便性の確保ということで、駅全体として乗換距離最短、アップダウン最小、わかりやすい、これを基本ベースに設計をしてもらいたい。
- ・ 椿町線が完成するが、渋滞なくスムーズに駅にアクセスできるような駅前整備が必要。
- ・ リニアの駅との乗換え利便性の向上というのはどこへ行くにしても共通した課題である。
- ・ オリンピックも視野に入れながら、わかりやすさの向上と言う面で、今からでもできることは少しずつ進めていけるとよい。

3. 中部圏の玄関口として、交流の拠点となり、多彩な魅力を持つまちへつなぐ

- (1) 来訪者を迎え入れ、もてなす機能を充実させる。
- (2) 他都市にない魅力を持った都市空間をつくる。

- ・名古屋を目指して来てくれる外国の人達をいかに増やすかということも考えてほしい。
- ・伏見、栄方面、また円頓寺、四間道を通ってお城、といった後背地への連続性がわかるような仕組みがあると非常にまちとしてのわかりやすさが出てくる。
- ・広小路を賑わい軸として回遊性を高めるためには、新しい交通手段を早く検討して導入してほしい。人が回遊し、賑わいも広がる。
- ・駅西を名古屋の西玄関としないのは、名古屋にとってもったいない。
- ・駅西に何か起爆剤になっていくようなものを是非お願いしたい。
- ・地域の人が回遊し、賑わいが波及することが非常に重要で、地域の賑わいの中心となるような商店街の振興ということもやってもらいたい。
- ・リニアが名古屋に来て首都圏と一体化するということは、名古屋圏に人を呼び込んでくるのが重要。
- ・歩行者空間の拡充で交通渋滞がかえって発生するのではないか。

4. リニア開通に向けて、行政と民間が一丸となって着実に構想を実現する。

(1) まちづくり構想を実現するため、行政がリーダーシップを発揮するとともに、行政と民間、民間相互など様々な主体が連携・協働してまちづくりを推進する。

- ・インフラ整備を名古屋市がする場合、税金を使うのではなく、税金を投資して固定資産税、事業所税の増収で確実に回収することで、将来的な高齢化社会、福祉社会などに対応する資金を市として確保するということになる。
- ・大阪は現在B I Dという仕組みを考えていて、T I Fなど名古屋でもプランを作ってもらいたい。
- ・一番問題になるのはやはり全体最適になるような形でできるかどうか。時間は少ないということで、とにかく力を合わせてやるしかない。
- ・リニア開通の14年後に向けて何をやるべきで、何ができて、何ができないのか。その具体的な方法は何か。リニア開業までには無理であれば、30年後ぐらいに向けてやるものは何であるのか。項目別にスケジュール立てをしていくべき。
- ・14年、15年後のリニア開通に合わせて、名鉄、近鉄、地下鉄、バスターミナルといったものとどういうふうに関係するののかについて、話し合いのタイミングの限度はいつなのか。スケジュール化というのが大至急で必要になってくる。
- ・中長期の計画を立てて、ここで税金を投入して変えていきますという計画を明らかにすれば、税金を払っても事業ができる、商売ができるという見通しを立てることができる。1千億投資するのなら、いつまでには回収を達成しようかと、そういった議論が必要。
- ・名古屋にリニアが来た時に変わっていないといけないので、リニアの開通を待つのでなく、今から準備を進めてできるところからやっていくべきで、タイムスケジュールが非常に重要だ。
- ・リニアのターミナル駅という特長を活かした、他のエリアに比べて優位性ということを踏まえた施策について具体的な検討や具体案を出してほしい。